



さんほんぐい
三本杭山頂で、植生回復の取り組み等について説明の様子

八面山はちめんざんのブナ天然林で

の幹や枝葉に触れ、樹皮や

ターが設置したシカ食害防

たと感想があり、当セン

防護ネットを設置して植生

は、豊富な土壌の養分が、

葉の匂いを嗅ぐなどの体感

止ネットや、ボランティア

ターとしても、今回の体験

の回復が見られる「さおり

雨水を通して山から川、海

を通じて、樹木の名前や特

等によるミヤコザサの移植

を通して、生徒の自然環境、

が原」とその周辺において、

へと流れ、海の幸を育む働

徴を説明しました。シカに

などによって植生の回復が

森林等への理解がさらに深

一体的に林床の植物の回復

きがあること、そして、洪

よるリョウブ等の樹木の剥

見られていること等を説明

まったものと考えてます。

と森の再生を目指すことを

水を防ぐ緑のダムなどの森

皮被害や森林総合研究所四

し、生徒から質疑応答をす

目的に、昨年引き続きシカ防

護ネットの設置作業を実施

林の大切な働きがあるとい

国支所と当センターの共同

るなどして、積極的に学習

実施

しました。

うことを説明しました。

でのシカ試験地では、シカ

に取り組みました。

〈高知中部森林管理署〉

当日は、高知県、香美市、

また、登山道沿いの樹木

食害防止ネットをしている

下山後、生徒代表から、

五月二一日、西熊山国有

南国市、香南市の各職員、

所としていな

「今回の登山を通じ、樹木

林（通称「さおりが原」周

高知大、高知工科大の学

い所の違いに

についての学習が出来まし

辺）において、「三嶺の森

生、高知工業高校の生徒等

ついて、生徒に

た。いろいろな樹木の種類

をまもるみんなの会」の協

幅広い参加者に加え、局署

質問をして、シ

がここにあることがわかり

力を得て、ボランティアに

からも参加し、総勢一四二

カ食害につい

ました。シカの食害による

植生回復の取組等について

名（一〇班編成）となりま

ての理解を深

も深く知ることができ有意

よるシカ被害防止対策を実

した。

めしました。

三本杭山頂

義な体験でした。本日はど

また、参加者の中には、

では、当セン

うもありがとうございまし

今回は、これまでにシカ

中国等からの留学生もお



り、国際的な活動となったことは、豊かな自然を守る事が万国共通である点において有意義であったと考えています。

現地での作業は、比較的登山道から近く、平坦地での作業であったため、参加者は体力もあり、リーダーの的確な指導のもとで段取



りよく作業を行い、予定どおり終了することができました。

今回のボランティア活動においては、「さおりが原」周辺の植物等が少しずつ回復しつつあることを、参加者全員が確認することができ、活動の成果を実感したものと考えています。

今後も、「三嶺の森をまもるみんなの会」と緊密に連携し、ボランティア活動を通じ、多くの人に三嶺周辺におけるシカ食害の現状等の理解を深めていただくとともに、各関係機関等の意見を聞きながら、三嶺周辺のシカによる被害防止と植生回復等、自然環境の維持に取り組んでいく考えです。



親子木工教室を開催 〈ふれあい推進センター〉

五月二十八日、愛媛県鬼北町立近永小学校で、一年生二二名と父兄等、四六名を対象に親子木工教室を開催しました。

一年生の児童には、愛媛県のゆるキャラ「みきゃん」の置物を製作してもらうこととし、スギの板のパーツを見本を参考に、各自が自由にポスターカ

ラーで色つけをして、ボードでヒノキの台座へ貼り付けて完成させました。

また、父兄の方も、児童と一緒に製作する合間に、サクラ、ミズメ、ヒメシヤラなどの木の小枝を使ったキットを利用して、フクロ



木エクラフト製作中の様子

ウのストラップや、カニのキーホルダーを製作しました。

今回は、短い時間でしたが、これからも親子で一緒に、木材や小枝を使って工作をすることにより、木材森林に親しみをもってもらいたいと思います。



完成したみきゃんの置物

校庭の樹木学習

〈ふれあい推進センター〉

宿毛市立小筑紫こつくし小学校では、平成二五年度から「総合的な学習の時間」を利用して毎年度四〜五回継続して

て森林環境教育を実施しています。

今年度も学校からの支援要請を受けて年間四回実施する予定です。第一回目として、五月二四日に五年生一〇名を対象に、森林の働きや校庭の樹木学習と樹木名板を製作しました。

最初に、森林とは、洪水

や土砂崩れを防いだり、防

災の働きや、快適な環境を

作る働きがあり、山は川と

海と密接につながっている

ことなど、「森林の大切な働

き」について講義をしまし

た。

名板が完成しました。

終わりに児童から「森林

の役割や大切さがわかりま

した」、「緑つてとても大切

なものだと改めて思いまし

た」、「私の知らないことば

かりで、ものすごく勉強に

なりました」、「二回目もと

その後、校庭に出て、樹

木の幹や枝葉に触れたり、

木肌の感触、葉や花の匂い

を嗅いだりして、樹木につ

いての名前や特徴を説明

し、ヒノキの板に、ポス

ターカラーで和名と科名を

書き、思い思いのイラスト

を描いて、個性溢れた樹木

でも楽しみにしています」

などの感想がありました。

センターとしても、今後

さまざまな森林教室を通し

て児童の樹木や自然環境、

森林等への興味や理解が深

まることを期待しています。

次回は六月に、木工クラ

フト学習を予定しています。

校庭の樹木学習の様子



完成した樹木名板